

菅原 伸也さん（平成17年卒）

社会保険労務士・行政書士

アクセス社会保険労務士事務所 経営

◇お仕事の内容を教えてください

社会保険労務士という職業は高校生の皆さんにとってあまり馴染みのない職業かもしれません。私も大学生になって初めてこの仕事を知りました。

社会保険労務士は企業に対して給与制度や人事配置など企業の「人」に関わる制度や資金繰りをアドバイスする仕事です。

私たちのアドバイスでその会社の社員の給料や人事配属が決まってしまうので重要な責任のもと仕事をしています。

給与設計や人事配置がうまくいくと、企業は財政面でも業績面でも非常に大きく成長することができます。

適切なアドバイスができるよう、日々の勉強や経験が非常に重要な職業です。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

自分たちが関わった企業が順調に成長し社員が生き生き働いている姿を見ると、とても仕事にやりがいを感じます。また、自社の社員も含めて「結婚して家族が増えました」とか「自分の給料で親孝行ができました」などと話を聞くととても嬉しく思います。

自分が関わった企業や、そこで働く社員が幸せな人生を歩んでくれること。これが、一番の喜びです。

◇将来の夢を教えてください

自分自身の夢よりも、自社の社員やお客様の会社の社員が「自分の夢を叶えられる」ような企業を創り続けていくことが私の夢です。

会社作りは「人作り」「組織作り」だと私は思っています。これをアドバイスする人間に相応しい人格作りと努力を続けていくことができれば自分の人生は大満足です。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

私は、「甲子園に出たい」という思いだけで専大北上高校に進学しました。宮城県出身の私は親元を離れての高校入学でした。入学してしばらくは野球漬けの日々で、それ以外の高校生活を楽しむ余裕は全くありませんでした。

しかし、運悪くケガをしてしまい、満足な野球部生活を送ることができなくなってしまったからは、学校に行くのも恥ずかしいと思うようになり、転校することすら考えました。

そんな中、当時の担任の先生のアドバイスで半ば野球から逃げるようにこれまでやったことのなかった「勉強」に力を入れるようになったんです。

勉強を始めた当初は成績がボロボロでしたが、次第に形になり始め3年生からは特進クラス（今でもハイクラという呼び方はされていますでしょうか?）、当時の3年A組に入り、国立大学の合格を目指すという新たな目標を持つことができるようになりました。

残念ながら国立大学に合格することはできませんでしたが、推薦で専修大学法学部に入学することができました。

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

高校生まで野球一筋だった（勉強なんてしたことがありませんでした、、、）私が、推薦で専修大学法学部に入学することができ、そこで法律業である社会保険労務士や行政書士といった職業を知りました。

大学時代、必死に勉強し資格を取って今では東京の日本橋という日本のど真ん中に会社を構え社員を抱えて経営者として働くことが出来ています。

恐らく、専修大学法学部に進学しなければこのような人生にはなっていないと思います。

私は、専大北上高校の進学システムと専修大学法学部の学習に対する取り組みに救われた人間の一人だと思います。

今できることに一生懸命取り組んでいれば、自然と出会いやきっかけが訪れるタイミングがあると思います。

私は、大学で自分の一生を捧げる職業を発見しました。

今はまだやりたいことが見つからない在校生の皆さんも、きっとどこかで運命的な出会いが訪れると思います。

それに出会うまでは「1日1日を一生懸命」目の前の高校生活を頑張ってください。

☆取材後記

難関資格試験の合格者情報をネット検索していると、ある受験専門誌に特集記事が、、、、何？専修大卒？、どんな方？、なんと本校の卒業生ではないか！早速、電話で交渉してみると、快く二つ返事で取材を引き受けて下さいました。

「後輩へのメッセージ」に書かれた『専大北上高校の進学システムと専修大学法学部の学習に対する取組に救われた』との言葉は、本校及び専大の強みを端的に訴求するものでした。

菅原さんは、常に全力投球の方なのだと思います。

専北生には「まずは、専大進学にチャレンジ！」と声掛けしたいですね（担当：Y）